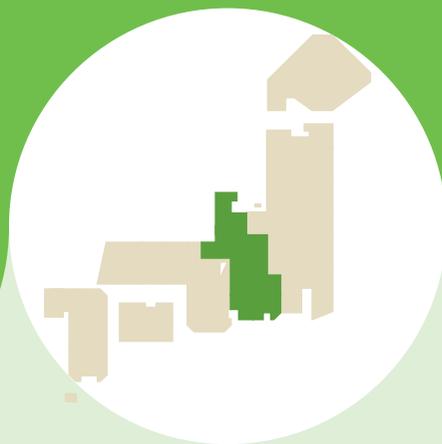


# 東海 北陸



## 富山県

京田重雄さん



ゲートボール

30

金子紀子さん



ボウリング

31

## 福井県

田中 哲さん



水泳

32

清水 寛さん



将棋

33

## 岐阜県

赤塚正嗣さん



卓球

34

## 静岡県

江面雄次さん



囲碁

35

丸山義明さん



サッカー

36

## 愛知県

藤島正己さん



弓道

37

## 三重県

杉田憲司さん



合気道

38

杉本久美子さん



テニス

39



## ゲートボール 「下関チーム」(選手)

きょうでんしげ お

京田重雄さん

100歳

● 参加歴：4回目

## 100歳で迎えた「ねんりんピック」。まだまだガンバル！

「ねんりんピック紀の国わかやま 2019」で100歳です。昔から同じチームと一緒にプレーしてきた下関ゲートボールクラブの仲間とともに30年以上健康で、病気もせずにゲートボールを続けてこられたことがうれしくもあり、自慢でもあります。

近年のねんりんピックへの参加も今大会で4回を数え、この度も最高齢者賞をいただき、市大会・県大会・各大会に続き、喜びにたえません。

残念ながらゲームの結果は3敗で、思い通りに行かず、失敗するほうが多かったように思います。

ねんりんピック参加のかたわら、市内観光を楽しみ、日本遺産巡りでは、歴史と万葉ロマン

あふれる、紀州55万石の和歌山城、紀三井寺、刺田比古神社と数多くの史跡を見ることができました。

観光途中には「あの人が100歳」などといういろいろな方に言われて注目され、「お願いします、一緒に写真を1枚撮ってください」とたくさん声をかけられました。パチリパチリと、シャッター音が途切れることはありませんでしたが、なぜか手元にはいまだに1枚も届いておりませんが。

今回、ねんりんピックに参加して、本当に楽しませていただきました。

私も、富山・高岡の命の遺産まではとって感謝しつつ、これからもガンバリます。



ゲートを狙いすまし、集中して一打。



チームメイトとともに、仲間を見守る。(左から2人目)



## ボウリング 「らいちょうチーム」(選手)

かねこのりこ  
金子紀子さん

74歳 ●参加歴：3回目

### 個人戦3ゲーム、トータル642点でまさかの優勝！

「ねんりんピック紀の国わかやま2019」には富山県から総勢174名が参加し、バス5台で和歌山へ向かいました。

ボウリングには、富山県からは2チームが参加しました。私たちらいちょうチームは、残念ながら県内の予選を通過できなかったのですが、出場予定の方が体調を崩されて、急遽出場が決まりました。

ボウリング競技は、2日間にわたり、新宮市の新宮東宝ボウルで全国から126名の選手が個人戦・チーム戦で競いました。

歓迎アトラクションでは、鯨踊りを披露してくださいました。

地元のボランティアの人たちから、温かいお

もてなしをしていただきました。豚汁や具だくさんの味噌汁などをふるまってもらい、おいしいみかんもたくさんいただきました。

私がはじめてねんりんピックに出場したのは、2016年の長崎大会でした。とても感動したのを覚えています。

2018年には地元富山で大会が開かれ、多くの参加者を迎えて行われました。このとき、私たちきときと富山チームは、前半戦は5位で終わりましたが、翌日の後半戦でパートナーにも助けられ、ダブルス戦で優勝することができました。地元の応援の力もあり、心強かったです。

今回の和歌山大会では個人戦3ゲームを行い、トータル642点で優勝することができました。信じられないことで、奇跡が起きたのではないかと思います。とてもうれしかったです。

他県の方たちとも食事をともにし、交流する機会があり、とても有意義な楽しいねんりんピックでした。

富山県の皆様にもいろいろとお世話になり、ありがとうございました。



チームメイトとともにいざ勝負。(前列右)



勝利に向けて、全力投球！

## 水泳 平泳ぎ 50m 「福井県選抜チーム」(選手団 団長)

たなか さとし  
田中 哲さん 80歳 ●参加歴：5回目

## 80歳で銅メダルを獲得！ 心の底から叫んだ万歳

今回のねんりんピックは福井県選手団長という榮譽を担っての参加でした。福井県からは161人が参加しました。子どもや孫たちが住んでいる関西圏で大会が行われたため、皆が応援に来てくれました。ねんりんピックへの参加と久しぶりに子どもや孫たちに会えるという二重の喜びを味わいました。

開会式ではメインスタンドから、そして競技会場では家族から熱心な応援をもらって、水泳競技でメダルを獲得しました。私も80歳になって最後のねんりんピックになるかもしれないと考えていましたが、選手団長として参加した大会でメダルを取ることができてほっとしました。

表彰台では心の底から万歳を叫び、福井県社会福祉協議会の役員や福井県選抜チームの監督から写真を撮っていただき、忘れられない思い出になりました。

今回、私が水泳競技に参加して感じたことが2つあります。まず、前回参加したときと比較して、参加者が増えたように思いました。

水泳は1レース8人で競技が行われますが、同一競技への参加希望者が8人を超えると、選手を2組以上に分けて競技が行われます。2組以上のレースが多くなったことが、スポーツをする高齢者が増えたことを示しています。

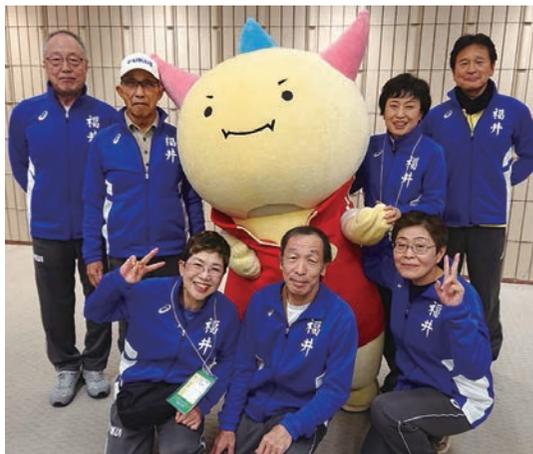
スポーツをして、健康を維持、推進することで、高齢者の運動人口の底辺が広がり、ねんりんピック参加者が増えてきたのではないかと想像し、高齢化社会がこのようなところにも反映しているように思います。

もう1つ。全国から集まった参加者が会場近くのホテルに分散して宿泊しましたが、毎朝食

堂と一緒に食事をする選手の食欲が半端ではなく、びっくりしました。普通の人の1日分の栄養摂取量を朝食で全部摂ってしまうのではないかと思うほどの分量を食べるのです。この量にして、この元気というのをつくづく感じました。食事量を制限して健康に暮らすなど、とても考えられません。常識が変わらなくてはいけないとつくづく思いました。

朝から思い切り食べて、身体は運動で調整するのが正しい、これが健康長寿の秘訣なのだと改めて気づきました。自分の周囲にも元気な人がいて、素晴らしいと思っていましたが、全国から元気な人が集まってくると、上には上がいると認識しました。

最後に、私は80歳まで健康に生きること、2019年のねんりんピックに出場してメダルを取ること、という大きな目標を達成しました。今後は健康に気をつけて新しい生きがいを模索していきたいと思います。



福井県庁で行われた壮行式でチームメイトと。(後列左から2人目)



## 将棋 「将棋 福井県」(選手)

しみず ひろし  
清水 寛さん 70歳 ●参加歴：4回目

### チーム主将の重責を果たし、3位入賞

2019年のねんりんピックは和歌山県で行われたが、私はこの大会をとっても楽しみにしていた。開会式の入場行進では、福井県選手団の青のユニフォームが映えて、とても力強く感じた。

将棋の会場は高野山だったが、ここは故大山康晴九段と故升田幸三九段が時の名人位をかけて対局し、「錯覚いけない、よく見るよろし」という有名な升田九段の言葉を残し、大山名人が誕生した地でもあった。チームの紹介コメントに「オール五段で上位入賞」との触れ込みがあり、私はなぜか主将になっており、責任重大だと思ったが、これは県将連のほうで出場4回という私の実績を買ったのだろう。副将の宮口喜代治五段と三将の永田敬一郎五段も出場3回の実績を持つ。

大会1日目は64チームを16ブロックに分けて、4チームずつのリーグ戦が行われた。各ブロックから1チームが翌日のトーナメント戦に出場できるというものだ。結果、我がチームは2-1、3-0、3-0の3連勝で、予選通過が決定した。2日目はベスト16によるトーナメント戦だが、福井県チームは過去ベスト8が最高だと聞いていたので、それ以上の成績を残したいと3人で誓い合った。1局目は地元和歌山県Bと当たり、勝利し、2局目は過去に優勝もしている東京都チーム。1勝1敗で先の2人が終わり、残るは主将戦の結果次第となったが、指運よく勝利し、ベスト4となって、一応の責任は果たしたと思ったものだ。これで事務局にも県将連にも報告できると、ホッとしたのを覚えている。だが、運もここまでで、次は準決勝、北九州玄海チームとの対戦で、前局と同じく1

勝1敗でまたしても主将戦となり、ここで優勢だった将棋を落としてしまった。皆に申し訳ない気持ちだったが、皆はここまで来られて良かったと励ましてくれた。夜は宿坊の遍照尊院で3位入賞おめでとうと乾杯し、望外の成績を肴に精進料理で喜び合い、舌鼓を打った。そういえば高野豆腐はここが源流らしく、3日間とも同じような料理だった。3日目の料理にはなぜかトンカツがついており、もう1日早かったら良かったと笑い合った。

さて、高野山には40年ほど前に一度、会社の研修で来たことがあるが、多少交通の便が良くなったぐらいで、大きくは変わっていないと感じた。観光は時間の都合で1カ所、金剛峯寺だけとなったが、由緒あるお寺ということで大いに感慨にふけて帰路についた。



決勝トーナメントの前に、気合を入れて勝利を誓う。(中央)



## 卓球 「岐阜清流チーム」(監督兼選手)

あかつかまさつぐ

赤塚正嗣さん

65歳

●参加歴：1回目

## 力を出し切った大会。次は特別表彰を目指す

以前より関心があった「ねんりんピック」に、卓球の監督兼選手としてはじめて参加しました。また、岐阜県選手団長の大役も仰せつかり、関係者約1800名が参加した結団式で決意表明を行い、知事から団旗が手渡されたときには、重責を肌で感じ、身が引き締まる思いになりました。

総合開会式前日、前泊先である大阪で、岐阜県選手団全員が参加し、懇親会を行いました。他競技の選手とも交流を深め、お互いの健闘を誓い合い、大変盛り上がったことを思い出します。

当日、快晴の下で行われた総合開会式は想像以上の規模であり、入場行進はテレビで見る全国大会を彷彿とするようで大変感動しました。その後行われた躍動感あふれる子どもたちのアトラクションも大変見事で、翌日以降の活力をもらいました。

総合開会式終了後、監督会議に参加。その後、合同開始式に参加しました。和歌山市による盛大な歓迎セレモニーがあり、大きな太鼓によるアトラクションは迫力もあり大変見事でした。

また、84歳以上の選手に対しては特別表彰があり、自分も特別表彰を目標にしたいと改めて思いました。

翌日、いよいよ卓球交流大会の開始です。ワクワクドキドキした気持ちで練習を早速開始したものの、周りの選手のレベルが高いことに驚きました。「交流が一番の目的で、勝敗は二の次」とだけ思い、プレッシャーに負けないようにしました。結果的に決勝トーナメントには進めませんが、持てる力は十分に出し切りました。

私は今大会65歳で参加しましたが、70代の選手が多数見られ、スピードのあるボールや軽快な動きなど素晴らしいプレーがとても印象的でした。この方たちがラージボールのレベルを上げていると強く感じ、自分も練習を怠らず、努力が必要だと認識させられました。

2020年、ねんりんピックは岐阜県で開催されます。「おもてなし」をする気持ちを忘れず、他県の選手と積極的に交流を深め、他県の方に喜んでいただける大会にしたいと思います。

最後に、大会の運営に関わった和歌山県の関係者の方、岐阜県選手団を支援していただいた岐阜県教育文化財団の皆様には大変お世話になり、御礼申し上げます。



選手団集合場所で、笑顔で記念撮影。(右から3人目)



総合開会式で。これからいよいよ入場行進。(前列左端)



## 囲碁 「ふじっぴー」(選手代表)

え づら ゆう じ  
江面雄次さん

73 歳

● 参加歴：5 回目

### 団体戦・個人戦ともに1位で念願の全国制覇！

静岡県では5月に全国大会に向けた県予選を行い、上位3名が代表となる。8つのクラス別で行われ、参加者は約200名。県代表を決める最上位クラス以外は小学生から90歳を超える年配者までが参加し、世代を超えた交流が図られている。

私の全国大会への参加は5回目となったが、開会式前日に開かれる出陣式は毎回楽しみで、今回はライトアップされた大阪城が見えるホテルで美味しいご馳走をいただきながら、同じテーブルについて合気道や将棋などの選手とリラックスした会話を交わしたり、ダンスや民謡などの余興を楽しんだりで、大いに英気を養った。これが効いたのか、団体戦・個人戦とも1位、念願の全国制覇が果たせた。

ねりんピックの大会で、改めて感動したのは総合開会式だ。会場の入口で地元の子どもたちから熱烈な歓迎を受け、元気をもらった。また、入場行進でグラウンドから見上げる周りの景色は何回体験しても格別で、グラウンドに揃う大勢の仲間との一体感を感じることができた。

囲碁大会は勝者同士のトーナメントで、2日間で4局対戦する。チームの成績は3名の合計勝ち星で競うが、同点の場合には対戦した相手の勝ち星の多いほうを上位とする方式を採用している。結果、我が「ふじっぴー」チームは、10勝2敗で2位チームと同点ながら、相手との勝ち星の差で優勝できた。また、個人戦でも、全勝者が4人出た中で、これも対戦相手の勝ち星に恵まれて1位となれたのは幸運だった。苦しい局面の碁もあったが、粘ることができたのは、チームメイトやお世話をいただいた方々の

おかげと感謝している。

全国大会でもうひとつ楽しみにしているのは、地元の文化や歴史にふれることだ。囲碁会場の海南市にある黒江町と宿泊地の湯浅町で、歴史の面影残る町並みを訪問する機会を得た。黒江町は漆器づくりで古くから知られる町。地元のガイドさんに案内していただいた。また、湯浅町は醤油発祥の地で、その味覚を楽しんだ。親切な町の人の説明で、自分の歩いている道が熊野古道の一部と知って感激した。

最後になるが、これからは、もっと多くの人に囲碁に興味を持っていただけるような環境づくりに貢献できたらと考えている。最近、「居場所づくり」が話題となっているが、我々のような年配世代から子どもたちに囲碁のおもしろさを伝える場を作れたらいいと考えている。



団体優勝したチームメイトと勝利をかみしめる。(中央)



## サッカー 「焼津飛魚サッカークラブ」(選手代表)

まるやまよしあき

丸山義明さん

68歳

●参加歴：3回目

### チーム全員参加で勝ち取ったグループ1位！

数年前、選抜チームでねりんピックに参加した選手から、『ねりんピック』は開会式やおもてなしが素晴らしいので、単独チームで出場を目指そう」とチームに呼びかけがありました。その後はチーム一丸となり、出場資格を得るべく練習を重ね、今年も出場することができました。過去には長崎大会と富山大会に出場し、グループ1位を獲得できたので、今年も1位を狙っていました。初日の宿泊先の大阪では盛大な出陣式を催していただき、他の競技の選手とテーブルを囲み、日頃の練習方法や健康維持の秘訣など情報をやりとりしました。舞台ではダンススポーツのペアが見事な演技を披露し、太極拳のグループは若々しい演武で花を添えてくださり、団長をはじめ他の競技の選手とともに、翌日からの健闘を誓いました。宿泊先から試合会場に向かうバスでは他県のチームと同乗になり、車中でチーム運営の問題や健康の話題など、シニアチーム特有の悩みをお聞きすることができました。ねりんピックならではのシニア同士の交流ができ、大変参考になりました。

初戦は素晴らしい天然芝の会場で鳥取県と対戦しました。鳥取県はグループ内で一番の実力があると考えていましたので、要所に経験豊か

な選手を配し、若手（といっても60歳ですが）をうまくリードして先取点、追加点と有利に試合を進めました。1点を返され、後半は防戦に必死になる場面もありましたが、なんとか逃げ切り、勝利をものにできました。2戦目は神奈川県チームでした。3点リードしてからは控え選手が全員交代出場して、なお1点を追加し、全員で勝利を勝ち取りました。2日目の対戦相手は愛媛県の強豪チームでしたが、シュートは1本も打たせず、1対0の会心の勝利で3戦全勝で大会を終えることができました。今大会も静岡県代表として、グループ1位を獲得できました。大会運営スタッフの心温まるおもてなしと、審判団の素晴らしいジャッジで、安全でフェアな試合ができました。

また、しずおか健康長寿財団の皆様や添乗のスタッフからも試合中に大きな声援をいただき、勇気をもらいました。

大会をサポートして下さったしずおか健康長寿財団の皆様にはチーム一同大変感謝しております。私たち焼津飛魚サッカークラブは次回の岐阜大会出場を目指し、静岡県シニアリーグを勝ち抜きたいと思います。ありがとうございました。



ゴールキーパーとしてリーグ優勝に大きく貢献。(後列中央)



## 弓道 「愛知県」(監督兼選手)

ふじしまさまみ

藤島正己さん

81歳

●参加歴：2回目

### 「予選突破と上位入賞」を目標に見事準優勝！

ねりんピックへの派遣選手を決めるにあたっては、県で選考会を行います。愛知県は広域で、大会への参加資格に該当する年齢の会員も多いため、1カ所での予選実施は困難です。そのため、従来から、名古屋市を除き東部、中部、西部エリアの3地区に県を分けて予選会を行い、毎年交代で本大会に代表を派遣しています。今回は西部エリアからの出場でした。選考会では成績上位者から男女関係なく7～10人を選び、その中で女子と70歳以上が1人以上入るように調整します。選手が決定した時点で、大会出発までの5カ月間に毎月1回の強化練習を行いました。そして、この強化練習に参加することを大会参加への必須条件としました。「予選突破と上位入賞」を目標に掲げ、厳しい練習を続けてきました。

名古屋駅を出発し、大阪で特急くろしお号に乗り換え、御坊駅で下車。その後バスに揺られながら、名産のみかん畑や梅畑など、広大な景色を眺めながら、会場の田辺市に到着しました。私たち弓道競技関係者の宿舎は、会場まで徒歩で10分程度のところで、期間中、ずっと同じ宿舎に滞在するという幸運に恵まれました。

開会式は、紀三井寺公園陸上競技場で行われました。私たちも小旗を手に持ち行進し、数々の素敵なアトラクションに感動し、楽しみました。和歌山県出身の歌手である坂本冬美さんが登場し、「ねりん世代」にエールを贈る曲を熱唱され、私もファンの一人として、素晴らしい歌唱に感

銘を受けました。

弓道大会は「京都三十三間堂通し矢」で有名な和佐大八郎終焉の地、田辺市立弓道場で2日間の競技が行われました。予選1回戦は5位、2回戦が2位で予選突破し、まずは初期の目標を達成、決勝トーナメントに進出しました。トーナメント1回戦は辛勝でしたが、2回戦と準決勝は楽勝でした。決勝戦は地元和歌山県チームと対戦するも、一歩及ばず惜敗しましたが、愛知県での予選会終了後にチームを結成し、合言葉は「予選突破と上位入賞」と誓い合ったのが実現し、大変うれしく思いました。また、交歓試合出場の2人も、的中数を満たして賞品を獲得でき、チームとしても万々歳の大会でした。

観覧席からも的中の度に拍手がわき、選手も心強く感じました。地元の皆様、誠にありがとうございました。滞在中は、競技会場や控え所での「おもてなし」など、手厚い歓待をいただいたことに感謝いたします。



チーム一丸となって準優勝を勝ち取る。(後列右から3人目)



## 合気道 「三重県代表」(選手代表)

すぎ た けんじ

杉田 憲司 さん

76 歳

● 参加歴：1 回目

## 道場の会員から花束贈呈のサプライズに感動

ねんりんピック紀の国わかやま 2019 で、この度はじめて合気道が競技種目として採用され、三重県合気道連盟より選出された津合気道会の杉田 (76 歳)、落合 (76 歳)、粉川 (61 歳) のまさに「ねんりんトリオ」が三重県代表選手として参加いたしました。

本来、ねんりんピックには参加しないことで周知されている合気道が今回参加できたのは、まず和歌山県田辺市が合気道開祖・植芝盛平翁生誕の地であること、また、2019 年が開祖没後 50 周年という節目の年でもあり、県や市はじめ植芝盛平翁顕彰会などの関係各位のご努力があって、和歌山でのねんりんピック開催とうまくリンクして実現できたのだらうと思います。

最初で最後になるかもしれないこの栄誉をいただきました 3 人が 8 日昼に津を出発、大阪で前泊し、翌 9 日には紀三井寺公園陸上競技場での開会式に臨みました。総勢 144 名の三重県選手団は観客からの大声援を受け、晴れがましく旗を振りながらの入場行進は圧巻でした。いろいろな素晴らしいアトラクションを楽しく見学させていただいたあと、合気道演武大会が行われます田辺市紀南文化会館に移動し、ここで合気道選手団歓迎会が催されました。和歌山県特産品の食材が美味しく料理され、お酒とともに舌鼓をうちながら、楽しいひとときを過ごしました。

10 日は早朝より、開祖没後 50 周年の行事「翁先生を偲ぶ会」に出席し、翁先生の眠る田辺市の高山寺での法要とお墓参りを敬虔な気持ちで済ませたのち、午後から待望の合気道演武大会が開始されました。

紀南文化会館の特設演武場で各都道府県の代表 34 チーム、男女合わせて総勢 116 名が持ち時間 3 分の演武に臨みました。私も三重県チームは 16 番目に演武し、結果として当会の落合が男女各 1 名の最高齢者賞に輝き、私、杉田は男女各 3 名の高齢者賞に入賞しました。副賞には和歌山県の特産品を数々送っていただき、家族に大いに喜んでもらうことができ、代表としての面目を保ちました。演武大会の会場には、私の道場の会員数名がはるばる遠方より駆けつけてくれて、同館の玄関先で我々 3 名が花束贈呈のサプライズをいただき、感動しました。ねんりんピックに参加して一番のうれしい思い出となりました。

最後にお世話になりました三重県、和歌山県の各関係者の皆様にご心より厚く御礼申し上げますとともに、願わくは今後も合気道をねんりんピックの種目に採用していただけますよう、お願い申し上げます。



遠方からの応援と花束に感動の笑顔。(中央)



## テニス 「神の子」(選手)

すぎもとくみこ

杉本久美子さん

60歳

● 参加歴：1回目

## チームが心をひとつにして勝ち取った銀メダル！

ねんりんピック三重県予選があったのは、令和元年6月23日でした。その頃、私は同年2月に生まれた初孫、それも双子の男の子の世話でテニスは週1、2回練習するのみでした。予選は運を味方につけたことと、パートナーの健闘のおかげで代表になれました。

私たち、三重県チーム「神の子」は、松阪市・明和町・伊勢市・熊野市と細長い三重県の南勢地区で練習している6人で構成することになりました。はじめてねんりんピックに参加する私でしたが、顔見知りのメンバーで、とても安心して大会に臨むことができました。

11月9日、秋晴れの空の下、「ねんりんピック紀の国わかやま2019」の開会式が紀三井寺公園陸上競技場で開催されました。前回参加した人から開会式の印象と感動を聞いていましたが、まさに聞いていた通りで式典、アトラクションなどが本当に素晴らしく、スローガンに掲げる「あふれる情熱 はじける笑顔」そのものでした。

11月10日、競技1日目、いよいよ予選リーグです。相手は相模原市・仙台市・兵庫県チームで、全勝してリーグ1位になりました。夕食時はリーグ1位を喜びつつも、普通に食事をし、翌日に備えて早く就寝しました。

11月11日、競技2日目、決勝トーナメントです。皆があえて優勝とはいわず、目の前の試合1つひとつに集中した結果、決勝戦まで来ましたが、残念ながら1-2で負けてしまい、準優勝でした。でも、皆で頑張っ

て1つのチームになれたと感じました。

表彰式では、1人ずつ銀メダルをかけてもらい、とてもうれしく心に残りました。表彰式が終わる頃には外は暗くなり、帰りの駅へ急ぐことになりました。和歌山県に3日もいながら観光できませんでしたが、帰りのバスや電車の中で、他県のテニスの選手や三重県の他の競技の選手と「ねんりんピック」という共通の話ができて、楽しい時間を過ごすことができました。

帰ってから新聞にチーム6人で撮った大きな写真と記事が載り、テニス仲間や地域の人たちから「おめでとう」や「新聞見たよ」と声をかけてもらい、いつまでも「ねんりんピック」の話をしています。

最後になりましたが、「ねんりんピック」に携わっていただきました皆様のおかげで、楽しく過ごすことができ、心より感謝いたします。また、もう一度感動を味わいたく、この大会に参加できるよう、練習に励みたいと思います。



チーム全員で勝ち取った銀メダル。(チーム左から3人目)